

## ドイツの言語と文化 第4回 文化パート1

範囲: 教科書まえがき、第一章 (-S. 16)

### まえがき

「ワイマル共和国 (**ヴァイマル共和国**、Weimarer Republik)」

…「第一次世界大戦後 (1919年) からナチスが政権をとる (1933年) まで」

\* ドイツ史の概説については、のちの授業で扱う。

\*\* 実際の国名は「ドイツ国 (Deutsches Reich)」で、「共和国」という言葉は使われなかった。

「アイヒマン裁判」…アウシュヴィッツ収容所の所長であったアドルフ・アイヒマン (Adolf Eichmann) は逃亡先のアルゼンチンで1960年に逮捕され、イスラエルで裁判にかけられ死刑とされた (1962年)。

\* ハンナ・アーレント『イエルサレムのアイヒマン: 悪の陳腐さについての報告 新装版』大久保和郎訳、みすず書房、1994年

\*\* マルガレーテ・フォン・トロッタ監督『ハンナ・アーレント』(映画、2012年、2013年日本公開)

映画「夜と霧 (Nuit et brouillard)」…アラン・レネ (Alain Resnais) 監督によるドキュメンタリー映画。強制収容所を扱う。

ベネデット・クロッチェ (Benedetto Croce、イタリア) …歴史家

チャールズ・A・ビアード (Charles A. Beard、アメリカ) …歴史家

### 第一章 共和国の成立 (S. 2-16)

#### ワイマル共和国の問題 (S. 2)

**ドイツ革命**→第一次世界大戦の敗北 (1918年)→新しい共和国の誕生→ヴァイマル (Weimar) にて新憲法の採択 (= **ヴァイマル憲法**)

ヴァイマル憲法…当時、「史上最大の民主的憲法」とされる

**ドイツ帝国** (1871年~1918年) の政治体制

- ・憲法、普通選挙にもとづく議会、政党は存在した
- ・政府 (首相以下の大臣) は議会とは関係なく皇帝によって官僚から任命された。Vgl. 藩閥政府、五・一五事件以降の超然内閣

ドイツ革命によるドイツ帝国の崩壊

- ・君主政→共和制
- ・議会に基礎をおく政党政治がはじめて行われることに

著者の問題設定…「このヴァイマル共和国がどうして永続しなかったか、せつかく民主的な制度をつくりながらそれが運用できなかったのは何故か、そしてナチスのような恐るべき怪物がそのなかから出てきた原因はどこにあるのか」

## 敗戦 (S.3)

### 第一次世界大戦の経緯

- ・1914年開戦、この年のマルヌの戦いでフランス軍の撃破に失敗
- ・ドイツ軍は見かけ上は優勢、ただし戦線は膠着
- ・戦争の長期化によって徐々に国民生活が苦しくなる
- ・戦争の継続に反対する一派が生まれる
  - …1917年には**社会民主党**（SPD=Sozialdemokratische Partei Deutschlands、開戦を支持）から**独立社会民主党**（USPD=Unabhängige Sozialdemokratische Partei Deutschlands）が分派、ただし、敗戦を望む者は少なく、妥協によって有利な条件で講和を考えた
- ・1918年の西部戦線での大攻勢が失敗、後退局面に→軍幹部が休戦条約を要求
  - \* **ウィルソンの十四カ条**…秘密外交の廃止、海洋の自由、関税障壁の撤廃、軍備縮小、ヨーロッパでの**民族自決**、植民地問題の公正な解決、**国際平和機構**の設立など

参謀総長**パウル・フォン・ヒンデンブルク**（Paul von Hindenburg）と参謀次長**エーリヒ・ルーデンドルフ**（Erich Ludendorff）

- ・ヒンデンブルクはタンネンベルクの戦い（1914年、東部戦線）でロシアに勝利
- ・大戦後期のルーデンドルフは軍の力を背景に政治を掌握、戦争反対論を弾圧、議会重視に反対
  - \* エーリヒ・ルーデンドルフ『**総力戦**』伊藤智央訳、原書房、2015年

## マックス内閣 (S.6)

ルーデンドルフの要求でゲオルク・フォン・ヘルトリング（Georg von Hertling）首相の辞職→バーデン大公マックス（Max von Baden）が組閣（1919年9月）

- ・3政党が参加：社会民主党、**中央党**（Zentrumspartei）、**進歩人民党**（Fortschrittliche Volkspartei）
- ・社会民主党からは**フィリップ・シャイデマン**（Phillip Scheidemann）が、中央党からは**マティアス・エルツベルガー**（Matthias Erzberger）が入閣
- ・3党は議会第一党～第三党（戦前、1912年の選挙による）で合わせると過半数、1917年に「平和決議」を議会に提出

社会民主党とは

- ・マルクス主義を標榜、カール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルスの流れを汲む

\* 前身は**ドイツ社会主義労働者党** (Sozialistische Arbeiterpartei Deutschlands)

・もともとは反戦を唱えていたが、ロシアのツァーリズム (Zarismus) を敵視し、第一次世界大戦では開戦を支持、レーニンなどからは「裏切り」とされる

・ただし、戦争目的を占領地の併合とする右派に対し、戦後の敵国民との親善を唱える (シヤイデマン平和)

→進歩人民党 (知識人に支持者が多い) や中央党 (カトリック政党) も同調、エルツベルガーによって平和決議へ

### 皇帝退位問題 (S. 8)

マックスとウィルソン (アメリカ大統領) の和平交渉

→皇帝ヴィルヘルム2世 (Wilhelm II) を要求される

→皇帝が退位の意味を示さないうちに革命が勃発

\* 竹中亨『ヴィルヘルム二世』中公新書、2018年

### キール暴動 (S. 9)

ヴィルヘルムスハーフェンおよびキールで水平の暴動 (1918年10月~11月)

→「**労兵協議会**」の市政掌握、全国に飛び火

→ミュンヘン革命 (1918年11月) では国王が退位

\* 協議会 (評議会) はドイツ語で Rat (複数形は Räte)、ロシア語でソヴィエト

\*\* ドイツ帝国は連邦制であり、帝国 (Reich) の下に複数の領邦 (Land) が存在し、領邦の大部分には君主 (王、大公、侯など) がいた。なお、皇帝は領邦としてはプロイセン (Preußen) を治め、プロイセン王でもあった。

### ベルリンの政変 (S. 11)

各地での革命を受け、社会民主党が連立離脱通告

→マックス首相は独断で皇帝退位を発表、社会民主党に政権を渡し、**フリードリヒ・エーベルト** (Friedrich Ebert) が首相就任

→皇帝は亡命

社会民主党の困惑

・政権を担当する用意がなかった=もともとは帝政下での民主化を主張

・ロシア革命およびロシア・ボルシェヴィズムへの反感

→革命嫌悪、大衆の突き上げによる政権獲得に戸惑い

独立社会民主党の現状

・当時の指導部はカール・カウツキー (Karl Kautsky)、エドゥアルト・ベルンシュタイン (Eduard Bernstein)、ルドルフ・ヒルファーディング (Rudolf Hilferding) ら

\* ベルンシュタインは**修正主義** (=革命不要論) の代表者

- ＊ ＊ ヒルファデーニングはのちに蔵相に就任する経済学者で、主著は『金融資本論』  
（ヒルファデーニング『金融資本論 上・下』岡崎次郎訳、岩波文庫、1982年）
- ・戦争反対論によって社会民主党から分派しただけで、やはり革命には反対

### オップロイテとスパルタクス (S. 13)

独立社会民主党内の反執行部勢力…革命的オップロイテ、スパルタクス団

#### 革命的オップロイテ (Revolutionäre Obleute)

- ・もともとは金属労働組合の出身
- ・ロシア革命に感激し、ロシア大使館からの資金援助で暴力革命を計画
- ・指導者はエミール・バルト (Emil Barth)、リヒャルト・ミュラー (Richard Müller)

#### スパルタクス団 (Spartakusbund)

- ・もともとは社会民主党内の左派で、独立社会民主党に移る
- ・レーニンの非民主性、プロレタリアート独裁を批判しつつ、ロシア革命自体は認める
- ・指導者はローザ・ルクセンブルク (Rosa Luxemburg)、カール・リープクネヒト (Karl Liebknecht) ら

### 共和国の成立 (S. 14)

エーベルト首相指名時の動向

- ・キール暴動以降、労兵協議会が全国に拡大、ロシア革命に類似した状況に  
→革命的オップロイテやスパルタクス団の勢力伸長  
→社会民主党は革命を恐れるようになる
- ・社会民主党と独立社会民主党との連立協議

リープクネヒトが社会主義共和国宣言をするという噂

- シャイデマンのドイツ共和国宣言 (1918年11月9日、エーベルト首相には無断)
- 機先を制されたリープクネヒトの社会主義共和国宣言は失敗

#### 連絡先など

講師のメールアドレス：tokan@nifty.com 講師のウェブサイト：<http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のサイト（配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/2018/2018sitDeutscheSpracheundKultur.html>